

令和元年度 第1回デ活シンポジウム

「企業も強くなる 首都圏も強くなる～テーマ別分科会の挑戦～」

日時 2019年7月19日（金）14:00～17:00

場所 都道府県会館 1F 101 大会議室

（司会：古屋） 本日はご参加いただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より首都圏レジリエンス総合力向上プロジェクト令和元年度第1回シンポジウムを開催します。私は司会進行役の防災科学技術研究所首都圏レジリエンス研究センターの古屋です。

開会に当たり、文部科学省研究開発局地震・防災研究課長、工藤雄之様よりごあいさつを頂きます。

あいさつ

工藤 雄之(文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長)

われわれ文部科学省が事務局を担当している、阪神・淡路大震災を契機に設置された地震調査研究推進本部という機関があります。最近、地震・防災研究の分野において、阪神・淡路大震災の後にどのような変化があったのかということを外部から問われる機会がありました。その点について、地震本部地震調査委員会の委員長である平田先生からお話を伺ったところ、震災以降は観測点が数多く整備されたとのことでした。つまり、地震本部が設置されて以後、非常に高密度の観測網が全国に構築され、これに伴い、長期評価や確率論的地震動予測地図の作成が可能になり、ひいては一般の防災に役立てていただけるようになりました。

ただ、われわれの活動は、地震本部による調査研究にとどまっているわけにはいきません。地震・防災研究をさらに深めていくにあたり、これまで地震本部が取り組んできた基礎研究要素の活動に加えて、この場にお集まりの民間企業、自治体、研究機関の方々の英知を結集することで得られるデータについて、近年のITの発展の成果を活用することにより、自治体や企業の方々に、災害時に日頃の生活や経済活動を中断してよいか否か、どのような規模で継続するのかを考えるといった実地的な活動につなげていただくことが非常に重要であると考えています。

本日のシンポジウムでは、各分科会におけるこれまでの研究成果が発表され、その成果を今後どのように生かしていくのかということが議論されると聞いており、

私自身、非常に楽しみに思っています。地震本部を支えていく中で、活動の成果が現実に使われ、それが防災に役立っていくことが、公的機関の活動として非常に大きなところであると考えています。本日のシンポジウムについても、議論や情報交換にとどまることなく、実際の運用にどのようにつながっていくのかを皆さまと一緒に考えていただければと思います。